

鳥の劇場 07/08 秋冬プログラム

<実績報告書>



「剣を鍛える話」

はじめに

各プログラムについて(1)創る(2)試みる(3)招く(4)いっしょにやる
観客を迎えるために

上演プログラム以外の企画・活動

まとめ

<参考資料> 観客アンケート結果

2008年3月23日

特定非営利活動法人鳥の劇場

〒680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町 122-3F Tel/Fax 0857-23-2224 (劇団事務所)

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野 1812-1 Tel/Fax 0857-84-3268 (鳥の劇場)

E-Mail info@birdtheatre.org URL <http://www.birdtheatre.org>

はじめに

鳥の劇場は、2006年7月から鳥取市鹿野町での活動を本格的にスタートさせ、これまでに二回の定期上演プログラムを実施しています。

□ 2006年9月～12月 「鳥の劇場オープニングプログラム 4作品連続上演」

初の上演プログラムの実施にあたっては、まず何よりも「鳥の劇場の存在、その活動が目指すところをより多くの人に知ってもらおう」ことを目標として掲げ、異なる趣向の四作品を四ヶ月連続で上演しました。来場者数：1,017人(延べ)

□ 2007年5月～7月 「鳥の劇場 2007年春のプログラム」

続いて行われた今年度前半のプログラムでは、「鳥の劇場の活動を地域の中で定着させてゆく」ことを目指しました。そのためには、活動の継続性が不可欠となります。「2007年春のプログラム」では、「作品をつくる」「場をつくる」「拠点となる」というそれぞれの取り組みにおいて、活動を継続的に行うための試みを行いました。(レパートリー作品の上演、ホワイエを含めた劇場施設の改善など。)来場者数：1,109人(延べ、関連企画を除く)

これら二回の上演プログラム、そして過去一年間の活動の中で常に取り組んできたのは、作品の製作と発表を通じて劇場という「場」をつくるということです。「鳥の劇場」は、劇団の名称であると同時に劇場の名前でもあります。使われなくなった幼稚園(旧鹿野幼稚園)と体育館(旧鹿野小学校)を稽古と上演のためのスペースとして利用するだけでなく、「公共の場」と呼べる劇場に育てていくことは、鳥の劇場にとってとても重要な課題です。

そこで、「鳥の劇場 07/08 秋冬プログラム」では、「地域における文化の拠点となる」という大きな目標へ向かって、作品の発表だけにとどまらず、より多様な切り口から劇場の魅力を紹介してゆこうと考えました。そのために、プログラムの編成において

- <創るプログラム> 鳥の劇場による作品製作・上演
- <試みる> 新しい切り口での創作活動
- <招く> 外部の芸術家、集団の招聘公演
- <いっしょにやる> 演劇、舞台の魅力を体験する参加型プログラム

という四本の柱を設け、劇場が持つ「創作の場」「上演の場」「演劇に触れる場」「人々が集う場」「発信の場」としての役割や機能を深めてゆくことを目指しました。

来場者数(延べ):

<創る>573人 <試みる>473人 <招く>216人 <いっしょ>92人 計1,354人

「鳥の劇場 07/08 秋冬プログラム」概要

- [期間] 2007年10月～2008年2月
- [会場] 鳥の劇場(鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1)
- [後援] 鳥取県 鳥取市 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社
- [助成] 鳥取県文化芸術活動支援補助金
- [主催] 鳥の劇場

各プログラムについて

(1) 創るプログラム

鳥の劇場の創作活動の中心となるのが、この創るプログラムです。今回は、レパートリー作品と新作を各一作品ずつ上演しました。

「老貴婦人の訪問」(レパートリー上演)

作 F・デュレンマット / 演出 中島諒人

2007年10月26日(金)～31日(水)

26日(金)開演 19時30分	来場者 25人
27日(土)開演 19時30分	来場者 64人
28日(日)開演 14時	来場者 71人
30日(火)開演 19時30分	来場者 84人
31日(水)開演 19時30分	来場者 51人

計5回上演 29日(月)は休演

観客総数 295人(平均来場者数 59人)

終演後のアフタートークはなし



料金：大人 2,000円 中高生 500円 小学生以下無料

2006年9月に、鳥の劇場の「柿落とし」で上演された作品の再演。この公演から客席の椅子を新しくしました。また、平日の開演時間を「春のプログラム」より30分遅くしましたが、仕事帰りには来やすくなったようで、平日の火曜日(30日)に観客が一番多く来場するという予想外の結果となりました。

【出演】

中村きくえ 赤羽三郎 齊藤頼陽 中川玲奈 増谷京子 西堀慶

【スタッフ】

舞台美術：中島諒人 照明：齋藤啓 音響：村上裕二 装置：赤羽三郎

演出助手：村上里美 葛岡由衣 制作：中島佳子

【あらすじ】

世界一の大富豪の老婦人が、生まれ故郷の町に帰ってくる。その町は文化的な伝統を誇るが、最近は大不景気にあえいでいる。老婦人は「正義」と引き換えに町に巨額の寄付を提案する。その「正義」とは？町の人たちのとった行動は？

【上演履歴】(旧題「貴婦人故郷に帰る」)

- 2006年5月 静岡県舞台芸術センター (Shizuoka 春の芸術祭 2006)
2006年9月 鳥の劇場 (鳥の劇場オープニングプログラム)
2007年3月 岡山県天神山文化プラザ (中四国演劇フェスティバル in 岡山)
2007年4月 高知県立美術館
2007年8月 富山県・利賀芸術公園 (利賀フェスティバル 2007)

アンケート結果より (添付の「観客アンケート結果」参照)

- 同じくレパートリー上演であった 2007年6月の「誤解」公演と同様、観客の数は伸び悩んだ。「誤解」と比較すると、鳥の劇場での観劇が「今回は初めて」という観客の割合が高く (47.8%)、前回の「老貴婦人の訪問」(2006年9月)を観ている割合が低い (22%)
「誤解」(2007年6月、上演4回): 観客総数 275人、平均来場者数 69人
- 終演後のアフタートークを望む声も聞かれた。

「剣を鍛える話」

作 魯迅 / 翻訳 竹内好 / 演出 中島諒人

2007年12月28日(金)~29日(土)

28日(金)開演 19時30分 来場者 109人

29日(土)開演 19時30分 来場者 169人

計2回上演 / 観客総数 278人 (平均来場者数約 139人)

終演後にアフタートークあり

料金: 大人 2,000円 中高生 500円 小学生以下無料

鹿野での上演の直前に、BeSeTo 演劇祭の一環として東京で上演された新作です。魯迅の短編小説集「故事新編」を舞台化したこの作品は、東京でも、鳥取でも、大変好評を博しました。年末にもかかわらず多くの観客が来場し、一年の最後を飾るにふさわしい盛況ぶりでした。(29日の来場者数 169人は、鳥の劇場作品としては最高。)

【出演】

中村きくえ 齊藤頼陽 中川玲奈 西堀慶
村上里美 赤羽三郎 葛岡由衣 増谷京子

【スタッフ】

舞台美術: 中島諒人 照明: 齋藤啓
音響: 村上裕二 演出助手: 中川諒也
制作: 中島佳子



【あらすじ】

16歳の少年・眉間尺は、父を殺した王に復讐するため、形見の青剣を背負って旅に出る。復讐の困難に直面する眉間尺の前に黒い男が現れ、加勢を約束するが…。切り落とされた生首が煮え湯の中で闘う奇怪な物語。

【上演履歴】

2007年12月 東京・新国立劇場（第14回 BeSeTo 演劇祭）

アンケート結果より（添付の「観客アンケート結果」参照）

- 他の公演と比べて、20代の観客の割合（34.1%）と県外（海外含む）在住者（11.4%）の割合が高かった。年末で帰省していた観客が多かったと思われる。同じ傾向は、ゴールデンウィークの公演（2007年5月「部屋」「料理昇降機」）でもみられた。
-



毛布を膝にかけての観劇
（「剣を鍛える話」）



終演後のアフタートーク
（「剣を鍛える話」）

(2) 試みるプログラム

鳥の劇場の活動の幅を広げるために新たに取り入れたプログラムです。今回は、劇団メンバーが普段とは異なる役割を受け持つことで、作品創りや観客との関係をより深くとらえなおすことを目指しました。

「雲の涯」

作 田中千禾夫 / 演出 齋藤啓

2008年2月1日(金)～3日(日)

1日(金)開演 19時30分 来場者 54人

2日(土)開演 19時30分 来場者 89人

3日(日)開演 14時 来場者 89人

計3回上演

観客総数 232人(平均来場者数約77人)

終演後にアフタートークあり



料金：大人 2,000円 中高生 500円(「ファンファーレを待ちながら」とのセット料金、一作品でも二作品でも同額) 小学生以下無料

普段は主に照明を担当する齋藤啓が演出。最終日には劇作家・田中千禾夫(1905～1995)のご子息も来場されました。この公演から、劇場内部全面にパンチカーペットを張り、防音と暖房効率の向上をはかりました。

【出演】

西堀慶 村上里美 赤羽三郎 葛岡由衣 齋藤頼陽

【スタッフ】

舞台美術：齋藤啓 照明・音響：村上裕二 装置：赤羽三郎 制作：中川玲奈 中島佳子
制作助手：黒絵櫻麻 赤羽ますみ カフェ運営：増谷京子 監修：中島諒人

【あらすじ】

終戦間もない山陰地方の山村。戦争で頭に傷を負った順之助は、復員して父親の医院を継ぐ。軍隊での忌まわしい記憶と「古沼」のような家の過去。彼は看護婦の双葉に救いを求める。二人は「古沼」の向こう、雲の涯に何を見出すか。

「ファンファーレを待ちながら」

作 ギィ・フォワシィ / 演出 齊藤頼陽

2008年2月22日(金)～24日(日)

22日(金)開演 19時30分 来場者 81人

23日(土)開演 19時30分 来場者 69人

24日(日)開演 14時 来場者 91人

計3回上演

観客総数 241人(平均来場者数約80人)

終演後にアフタートークあり



料金：大人 2,000円 中高生 500円(「雲の涯」とのセット料金、一作品でも二作品でも同額) 小学生以下無料

俳優の齊藤頼陽が演出を担当しました。初めて雪の日に上演を行いました。会場は普段と変わらない賑わいを見せていました。

【出演】

増谷京子 中川玲奈 赤羽三郎

【スタッフ】

舞台美術：中島諒人 米井美由紀 照明：齋藤啓 音響：村上裕二 制作：中島佳子

制作助手：黒絵櫻麻 赤羽ますみ ホワイエ設営：西堀慶 村上里美

カフェ運営：葛岡由衣 監修：中島諒人

【あらすじ】

年に一度のお祭りの日。同じ老人ホームに暮らす三人の老人がファンファーレの行進を沿道で待っている。社会や若者への不平を次々にあげる三人。ひねくれ者だけど、いとおしさを感じさせる老人たちを描く。

アンケート結果より(添付の「観客アンケート結果」参照)

- 「今回がはじめて」という観客の割合が非常に低かった(17.1%)。「雲の涯」とのセット料金であることが影響している(「雲の涯」を観ていれば、「ファンファーレを待ちながら」も観劇可)と思われるが、「雲の涯」を観たと答えた観客は約半分しかいない(59.8%)

(3) 招くプログラム

鳥の劇場以外の芸術家・芸術団体を招聘するプログラムです。初の実施となった今回は、コンテンポラリーダンスの巡回公演「踊りに行くぜ!!」を、とりのダンス実行委員会、鳥取大学地域学部附属芸術文化センターとともに共催しました。

JCDN 全国パフォーマンススペース間のダンス巡回プロジェクト

「踊りに行くぜ!!」vol.8 鳥取公演

主催 JCDN (NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network)

共催 とりのダンス実行委員会 鳥の劇場 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

2007年11月24日(土)開演15時

計1回上演 / 来場者216人

料金: 大人2,000円 大学生1,500円 中高生500円

小学生以下無料

【出演者と作品】(出演順)

じゅんじゅん [東京]「瞬きの音」

24(式拾四) [鳥取]「籠の中の一人称 - 半音下がる」

EAsy [鳥取]「relate」

P Lush [東京]「Headache アタマガイタイ-」

白舞寺 [台湾]「過火 Crossing Fire」

北村成美 [大阪]「うたげうた」

終演後に全出演者参加のアフタートークあり

(司会: 鳥の劇場主宰 中島諒人)

翌25日(日)に、関連企画「とりのダンスワークショップ」を開催



じゅんじゅん

開催までの経緯

「踊りに行くぜ!!」の企画・主催者である JCDN (NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network) のスタッフが2007年5月に鳥の劇場を訪れ、「踊りに行くぜ!!」開催を提案したことをきっかけに、初の鳥取公演へ向けた活動がスタートしました。

とりのダンス実行委員会

「踊りに行くぜ!!」鳥取公演へ向けて、鳥取大学地域学部附属芸術文化センター(五島朋子さん)と鳥の劇場が中心になって呼びかけを行い、「とりのダンス実行委員会」が発足しました。メンバーには、鳥取でダンスに取り組んできたグループ(ダンスコング、ADM)、ダンス愛好家、鹿野町在住のスポーツダンスインストラクター、舞台芸術に興味を持つ市民など多彩な顔ぶれが集まり、特に集客の面で大きな役割を果たしたほか、当日の運営にも積極的に参加しました。ただ、鳥取大学、とりのダンス実行委員会、鳥の劇場の共催三者の関係についてはあいまいな部分が多く、課題を残す結果となりました。

鳥取からの作品

鳥取公演を開催するにあたっては、これまでの鳥取におけるダンスの取り組みとその実績を踏まえることが重要であるという視点から、地元作品が二本選出されました。

宣伝・告知活動

「踊りに行くぜ!!」鳥取公演のチラシ・ポスター（右）を作成し、とりのダンス実行委員会のメンバーが中心となって県内の広範囲に配布しました。



公演の運営

当日の劇場運営は、鳥の劇場が担当しました。初めて外部の芸術家たちを受け入れるということ、また当日が超満員だったこともあり、問題点多々見受けられましたが、演劇祭の開催など今後の招聘活動に向けて大きな蓄積を得ることができました。

公演の成果

これまでとは異なる層の観客が鳥の劇場に足を運んだこと、また全国二十一都市で開催された「踊りに行くぜ!!」を通して、小規模ながらも全国的な発信ができたことなど、鳥の劇場の文化拠点としての認知度を高めてゆく上で、大きな成果を得ることができました。

アンケート結果より（添付の「観客アンケート結果」参照）

- 他の鳥の劇場公演に比べて、初めて鳥の劇場を訪れた人の割合（61.7%）と鳥取市以外の県内在住者の割合（34%）が高かったことから、これまでとは異なる客層が来場したことがうかがえる。
- 「踊りに行くぜ!!」以降の三公演（「剣を鍛える話」「雲の涯」「ファンファーレを待ちながら」）で、「踊りに行くぜ!!」を観たという観客の割合が低い（14.8%、14.7%、11.4%）ことから、ダンスと演劇の客層が比較的是っきりと分かれているようである。
- 年齢別では、10代の観客の割合が他公演に比べて高く（17.0%）、小学生以下の観客数も17人を数えた。10代から50代までの年代ごとの割合に大差がなく（17.0%、19.1%、17.0%、14.9%、21.3%）幅広い年齢層がダンスを観に来たことがわかる。



「踊りに行くぜ!!」vol.8 鳥取公演
出演者とスタッフ

(4) いっしょにやるプログラム

一般市民の方に上演以外の方法で演劇や舞台の魅力を体験してもらう参加型のプログラムです。今回より、関連企画ではなく、正式にプログラムに取り入れました。

「戯曲の講座」

講師 中島諒人 / テキスト 「老貴婦人の訪問」(作 F・デュレンマット)

2007年10月6日(土)・7日(日)

6日(土)13時~16時 参加者6人

7日(日)13時~16時 参加者7人

料金：大人1,500円 中高生500円

これまでも好評を博してきた企画です。10月26日(金)~31日(木)の「老貴婦人の訪問」上演を前に、参加者とともに戯曲を読み、そのおもしろさを探りました。上演にあたっての演出面の解説も行い、上演をより楽しんでもらえるようにしました。

「舞台空間のワークショップ」

講師 中島諒人 赤羽三郎 齋藤啓

2007年11月17日(土)13時~16時

参加者17人

料金：大人1,500円 中高生500円

舞台美術と照明についての簡単なレクチャーを受けた後、参加者がスケッチブックを持って実際に舞台空間をデザインしました。そのうちのいくつかのデザインを、劇場にある物を使って実際に表現し、照明を当ててみました。今後もぜひ続けてゆきたい企画です。



グループごとに
デザインを考える参加者

「とりのダンスワークショップ」

主催 とりのダンス実行委員会

講師 北村成美（「踊りに行くぜ!!」vol.8 鳥取公演出演者）

2007年11月25日（土）

小中学生対象 11:00～12:30 参加者 33人

大人対象（高校生以上）14:00～15:30 参加者 29人

料金：大人 1,500円 小中高生 500円

「踊りに行くぜ!!」鳥取公演の関連企画としてワークショップを行いました。講師は、前日の公演にも出演した北村成美さん。大々的な告知をしなかったにも関わらず、子供クラス、大人クラスともに非常に多くの参加者が集まりました。



屋外で小作品を発表（子供クラス）



最後に全員で深呼吸（大人クラス）

観客を迎えるために

鳥の劇場では、劇場は人を迎え入れもてなす場である、という考えのもと、さまざまな取り組みを行っています。

[チラシとポスター]

劇場に足を運んでもらうための第一歩は、上演や催し物の開催を知らせること。そこで大きな役割を担うのが、チラシとポスターです。

□ チラシ

「07/08 秋冬プログラム」のチラシは、20,000 部作成しました。単に公演を告知するだけでなく、鳥の劇場を紹介する資料にもなっています。

配布内訳：

- DM・招待状と同封 954 部
- 県内外文化施設等に送付 5,260 部 (221 ヶ所)
- 鳥取市内等の施設、商店での「置きチラシ」 6,169 部
- 他の公演での「はさみ込み」 5,105 部 (20 ヶ所)
- 小中学校への配布 460 部
- その他 2,052 部

これ以外に、「いっしょにやるプログラム」¹⁾、「踊りに行くぜ!!」²⁾、「試みるプログラム」³⁾等の個別チラシも作成しました。

□ ポスター

チラシと同じ水色のポスター (右) は、500 枚を、鳥取市内を中心に貼りました。



[送迎]

JR 浜村駅と劇場間の送迎は、鹿野町民ミュージカル関係者を中心とするボランティアの協力で行われています。昼の公演での利用者が多い傾向が見られます。

- 延べ利用者数 (帰りの便のみ): 鳥取方面 72 人 米子方面 14 人 計 86 人
- 1 回の上演に際しての平均利用者数: 約 6 人

[託児サービス]

有料の託児サービスも、徐々に定着してきているようです。

- 延べ利用者数: 6 人

【ホワイエ・カフェ】

ホワイエでは上演の前後に「鳥のカフェ」をオープンしています。「まる達コーヒー」と「ル・コシヨンドール」のパンを楽しみに劇場に来られる方も少なくないでしょう。ホワイエの壁面には、上演される作品の解説や活動の予定、またサポートの方のお名前を表索しています。10月から新しくした客席の椅子は、ホワイエでも使用しています。



上演前に中庭でコーヒーを飲む

【花壇】

鹿野町が取り組む「はなのまちづくり」とも連携して、中庭にあった子供用のプールに花壇を作りました。季節の花たちが、劇場の新しい顔になっています。



中庭の花壇

【バリアフリー】

入口や玄関周辺の段差解消のため、手作りのスロープを設けています。バリアフリーな劇場への努力は今後も続けてゆきたいと思います。

【鳥のボランティア】

より多くの人に鳥の劇場に関わってもらい、サポートしてもらおう、という思いから始めたのが、ボランティアスタッフ「鳥のボランティア」の募集です。12月に募集を開始し、現在5人の方が登録されています。おもに公演当日の準備、会場スタッフとしての仕事をお願いしています。

上演プログラム以外の企画・活動

「07/08 秋冬プログラム」の正式なプログラムではありませんが、同様に「文化の拠点としての鳥の劇場」を実現するための試みとして行われている企画や活動です。

〔海外のよいアニメーションの上映会〕

鳥取ロータリークラブからいただいた「米原賞」の賞金で購入した液晶プロジェクターを使い、入場無料の上映会を行いました。小さな子供から大人まで、幅広い年齢層の方に来ていただき、舞台の上演とはまた違った劇場の魅力を発見できたように思います。

〔その1〕 「雪の女王」

9月30日(日) 14時 来場者 87人

〔その2〕 「アリス」

10月20日(土) 14時 来場者 32人

10月21日(日) 14時 来場者 63人

〔その3〕 「霧につつまれたハリネズミ」ほか

11月17日(土) 19時 来場者 32人

来場者合計 214人



上映会のチラシ

〔学校等でのワークショップ〕

鳥の劇場が継続的に行っているのが、学校の児童・生徒を対象にしたワークショップです。演劇が社会に必要とされるきっかけとして、また自分たちの表現を見直す機会として、重要な活動です。継続して関わりを持った学校では、かなりの成果を収めることもできました。今後は、ノウハウの蓄積も必要となってくるでしょう。

2007年夏以降の実績は、以下の通りです。

□ 読み聞かせグループ「さくらんぼ」夏休みイベントでの上演「三匹のやぎのがらがらどん」2007年7月29日 会場：鳥取市立鹿野小学校中庭

□ 鳥取県教育センター「教師の人間力向上」研修（教員対象）

2007年8月28日 会場：鳥の劇場 参加者：9名

□ 鹿野こじか園交流会 上演「三匹のやぎのがらがらどん」とワークショップ（年長園児対象）2007年9月19日、11月13日 会場：鳥取市立幼児センターこじか園

□ 逢坂小学校 「さくら姫」上演に向けての指導（全校生徒対象）

日時：2007年6月19日～11月11日（学習発表会まで計10回程度） 会場：鳥取市立逢坂小学校

□ 鹿野小学校 演劇指導（6年生対象）

2007年11月8日～18日（学習発表会まで計3回程度） 会場：鳥取市立鹿野小学校

□ ITC 鳥取クラブ「教育プログラム」

2007年11月16日 会場：ホテルニューオータニ鳥取

□ 白兔養護学校「コミュニケーションワークショップ」(高校生対象)

2008年1月23日、29日 会場：鳥取県立白兔養護学校

□ 湖南小学校ワークショップ(5、6年生対象)

2008年3月5日、6日 会場：鳥取市立湖南小学校



湖南小学校でのワークショップ

【鹿野「コスモス回廊」ライトアップと鳥のカフェ】

鹿野町のまちづくりの取り組みには、鳥の劇場も積極的に参加しています。地域の人たちとの交流をはかることはもちろんですが、舞台芸術の専門家として何ができるのか、ということを試す機会でもあります。今年度、特に力を入れて関わったのが、町内の休耕田にコスモスの花を咲かせた「コスモス回廊」です。鳥の劇場は、種まきから始まり、来訪者の散歩道を確保するレイアウト、ライトアップ(10月13日~28日)「わったいな祭」での「鳥のカフェ」の営業(10月20、21日)と参加し、「コスモス回廊」の賑わいに一役買うことができました。今後も、地元鹿野町との有機的な関係を探ってゆきたいと考えます。



「コスモス回廊」での「鳥のカフェ」

まとめ

< 鳥の劇場を訪れる人の数 >

□ 「07/08 秋冬プログラム」全体の来場者数は、四つのプログラムを合わせて
1,354人(延べ)

□ プログラム外の「海外のよいアニメーションの上映会」を入れると
1,568人(延べ)

□ 「2007年春のプログラム」(三公演と関連企画「戯曲の講座」)来場者数延べ1,163
人を合わせた、2007年度に来場者数は
2,731人(延べ)

これに、その他のワークショップ、稽古見学等を加えると、年間の延べ来場者数は3,000
人を超えられると思われま

< 「公共劇場」としての鳥の劇場への注目 >

徐々にではありますが、鳥の劇場の取り組みに注目が集まり、公立ではない「公共劇場」
のあり方の一つとして、紹介されることが増えてきました。主宰の中島が招かれて、活動
について話す機会も二回ありました。

□ 東京大学文化資源学公開講座「市民社会再生 文化の有効性を探る」後期8回～文化
の力とは～ 2007年10月19日(金) ゲスト講師として

□ 早稲田大学演劇博物館グローバルCOE主催「公共劇場の10年 舞台芸術・演劇の公
共性の現在と未来」 2008年2月7日(木) 6人のパネリストの1人として

< 2008年度へ向けて >

鳥の劇場が目指す「地域における文化の拠点」は、民間の一劇団が公共的な劇場をつくら
う(運営しよう)という、先行するモデルケースのない試みであるといえます。しかし、
超えなくてはならない課題は明確です。

- 収入の確保、財政基盤の安定化
- 上演に来る観客の数を増やすこと(現在はやや頭打ち)
- 質の高い作品を上演し続けること

これらの課題とこれまでの実績を踏まえ、2008年度
は初めて年間を通してのプログラム編成を行います。
鳥の劇場という劇場があることの意味を、より多くの
人に感じてもらえるよう、活動を展開させていきたい
と考えます。

